

本科 1 期 7 月度

解答

Z 会東大進学教室

高 2 難関大英語 S

高 2 難関大英語



## 11 章 助動詞構文2

### 問題

#### 【1】

##### ポイント

助動詞に関する入試レベルの標準的な問題を解いてみよう。

##### 解答・解説

##### (1) d

「トンプソン教授はいつも時間に正確だ。だからすぐにここに来るはずだ。」

- should は‘当然の推量’で「～するはずだ」の意味。
- punctual 「時間に正確な」

##### (2) b

「神が我らによりよい人生を示さんことを。」

- May S V! の形は‘祈願文’と呼ばれ、「SがVしますように」という意味になる。

##### (3) d

「まだ朝6時にすぎない。リアはこの時間は寝ているかもしれない。」

- asleep は形容詞であるから a はおかしい。might have been は‘過去の推量’を表すため、ここでは不適。may well …は「…するかもしれない；…するのも当然だ」、might as well …は「…した方がよい」という意味であるが、動詞を伴うため c の sleeping ではおかしい。

##### (4) b

「ネイザンと彼の家族は街を出ているに違いない。私達が何度か電話をしたが、応答がない。」

- 何度か電話をしたのに出なかったのだから、街を出たに「違いない」となる。must は‘確信度の高い推量’で「～に違いない」という意味を表す。なお、もし選択肢に should have gone があれば「出かけてしまったはずだ」という意味になるため、正解となる。

##### (5) a

「生徒がメディアを批判的に眺められるようになることは重要だ。」

- ‘必要性・重要性’の形容詞の後の that 節内はしばしば仮定法現在になるが、主にイギリス英語では should を伴う。この should は訳出しない。

#### 【2】

##### ポイント

入試英作文に頻出される構文を演習しながら英文ごと覚えてしまおう。

##### 解答・解説

##### (1) You have only to look around to see how important peace is.

**別解** You have only to look around to find the importance of peace.

○「to see するためには look around しさえすればよい」と考える。

○ have only to *do* 「…しさえすればよい」

cf. All you have to do is (to) study. = You have only to study.

(2) You cannot say too often that honesty is the best policy.

○ cannot ~ too … 「どんなに～しても…しすぎることはない」

(3) I would rather [sooner] die than work for a company like that.

**別解** I would as soon die as work for a company like that.

○ would rather [sooner] A than B = would as soon A as B = might as well A as B 「B するくらいなら A した方がよい」

(4) When I first began studying abroad, I had no friends, so I would often turn to the wall and cry.

○ would は‘過去の習慣’を表す。この用法ではしばしば時の副詞 (often, usually, sometimes など) とともに使われる。

(5) Why should we be satisfied with less than a half when we could have it all?

○ should は‘主観的感情’を表して「いったい～」という意味。could は仮定法と考えることができ、 「もしかしたら」という仮定を含む。when は逆接の接続詞のように用いられることがあり、 when S V 「S が V なのに」と訳すことができる。

### 【3】

#### ポイント

実際の会話文で、助動詞がどのように使われているかを確認していこう。

#### 解答・解説

(1) **h** Could you ~? (～していただけますか。) という丁寧な表現となる。

(2) **l** know *one's* way around (地理に明るい) という熟語を問う問題。

(3) **a** You're telling me. (おっしゃる通りです。) は決まり文句。

(4) **f** 明日のことに言及しているから未来の *will* を入れる。

(5) **m** 「明日会えるけれども」と逆接になる。

(6) **i** 「C 棟が学部の建物だからそこが研究室に違いない」となる。

(7) **j** 「メールで送ることができないのはどうしてか」となる。

(8) **c** 「P C を持ってすらいけない」となる。**j** も入りそうだが, not just = not only となつて「コンピュータを持っているだけではない」という意味になってしまう。

(9) **n** be meant to *do* は「…しなければならない; …することになっている」の意味。had better は命令口調であり目上の人には用いない。

(10) **g** had better …は「…した方がよい」。get a move on は「事を急ぐ」。

#### 全訳

エマ : ハーイ、ジェイコブ。助けてくれると嬉しいのだけど。ボズウェル博士の研究室を探しているの。

ジェイコブ: ごめん。僕もまだ本当によくわかっていないんだ。大きなキャンパスだから。

エマ : それはそうね。でも、本当に急いでいるの。

ジェイコブ：どうして急いでいるの？　ともかくボズウェル博士には明日の授業で会えるでしょう。

エマ　　：うーん、でも宿題をまだ提出していないの。昨日提出することになっていたのよ。

ジェイコブ：ええと、C棟が芸術学部の建物だから、たぶんボズウェル博士の研究室もそこにあるに違いないと思うよ。

エマ　　：そうだといいわ。もうすぐ5時ね。ボズウェル博士は家に帰る頃かもしれないわ。

ジェイコブ：そんなことないと思うよ。ボズウェル博士は仕事中毒だって皆言っているから。

エマ　　：どうして作品を電子メールで送ることができないのかしら。

ジェイコブ：ボズウェル博士はコンピュータを持ってすらいらないそうだよ。

エマ　　：本当に。すべての教授は持っているはずだと思っていたわ。

ジェイコブ：とにかく、急いだ方がいいよ。

エマ　　：そうね。ではまた明日。

#### 【4】

A.

全訳

彼は物事を自分に代わって誰か他の人にもっと能率的にやってもらいよりも、自分の力でやることを好んできた。また中には、やってもむしろ金をもらいたくないと彼が思うような仕事もあるのだ。

B.

全訳

あなたが今直ちに直視した方がよい事実が1つある。つまり、最も容易なことが自分にとって最もためになるということはめったにないということである。病気や飢饉や貧困やその他の不幸を克服するために、人類はその解決法を考え出すことを余儀なくされてきた。苦しみが大きければ大きいほど、それによって知力は前進してきたのである。

C.

全訳

人によって動機は違うが、すべての人が分かち合うであろういくつかの一般的な理由、つまり、個人だけでなく、そのような行動において個人を支える社会全体にも理解できると思われる理由があるに違いない。

D.

全訳

非常に限られた、取るに足らない意味においてのみであるが、読書が個人的な活動であるということはいくら強調しても、し過ぎることはない。静かに読書をする人間はたとえ部屋が人であふれかえっていても、ある意味では孤独である。なぜなら彼はそこにいる他の人々がまったく参加していないことをしているのだから。



【5】

解答

- (1) 「全訳」の下線部①～④参照。
- (2) people are lasting longer than they used to
- (3) a
- (4) c
- (5) broken
- (6) 次の土曜日の朝に、息子の最初のレコードプレーヤーを捨てることから、不要な電気器具を捨てるという仕事に着手する、ということを言っている。
- (7) a, g

解説

- (1)
  - ①否定と比較級で実質上の最上級を表している。  
「電気器具ほど古いものはない」→「電気器具が一番古い」  
また後に続く本文から、これがどんな意味を表すのかを考えて和訳する必要がある。  
◇ appliance 「器具；道具；設備」
  - ②◇ It は不定詞を受ける形式主語。  
◇ the idea that ～「～という考え」 the idea と that 節は同格。  
◇ defined 「限定された」
  - ③◇ Usually the appliance is *so* new, *so* shiny, *so* magic and *so* expensive when we buy it *that* …  
○ so ～ that … 「非常に～なので…」  
◇ its mortality is no more questioned by us than our own 「我々がその死ぬべき運命を問われないのと同様に、器具もその死ぬべき運命を問われない」  
○ A is no more … than B (is) 「Bが…ないのと同様にAも…ない」  
○ its mortality = appliance's mortality  
○ our own (mortality) と補って考える。  
○ question 「～を疑う；～を問う」
  - ④◇ as if you were doing them a favor 「まるで彼ら（＝友人や親戚）の願いを聞き入れるかのように」  
○ as if ～ 「まるで～のように」  
○ do ～ a favor = do a favor for ～ 「～に親切にする；～の願いを聞き入れる」
- (2) ◇ last 「続く；生き長らえる」  
◇ used to do 「かつて…した」  
○ used to (last) と補って考える。
- (3) dawn on 人 「(意味, 真実などが) 人にわかりはじめる」  
○ dawn の発音に注意。[dɔ:n]  
a 初めて問題そのものに気づくようになった。  
b 最初はその問題を理解するのが難しかった。

- c 最初はその問題全体がはっきりとしなかった。  
 d 最初はその問題を素早く解決しなければならなかった。
- (4) as things stand today 「現状では」  
 a しばらくの間                      b 普通は  
 c 現状では                              d 現在まで
- (5) 文脈から文の初めに出てくる broken が入る。  
 (6) 続く最後の一文で具体的に何をするかがはっきり書いてある。  
 Out it goes = it goes out 「それは出ていくのだ」(つまり、捨てるということ)  
 ○ it = my son's first record player
- (7)  
 a 著者は使われていない電気器具を家の様々な場所で見つけている。  
 ○第3段落の内容に合致 ○  
 b たいていの人はふつう、古い電気器具はただで人にあげてしまい、そのことについて二度と考えない。  
 ○第5段落の趣旨に反する ×  
 c 葬儀屋は壊れた電気器具を捨てる際に大変助けとなる。  
 ○葬儀屋のようなものがもしあれば、という仮定の話なので ×  
 d 文明的な暮らしとは、役に立たなくなったからという理由だけで、物をすぐに捨てることを意味する。  
 ○本文中に記述がないし、第4段落の Just tossing a food mixer into the trash seems so uncivilized にも反する ×  
 e 喜んで古い電気器具を引き取ってくれる友人を探さなくてはならない。  
 ○第5段落で、友人や親戚に古い電気器具をあげるのは最悪だと言っている ×  
 f 新しい電気器具を買う時に、まずそれは長い期間使えるかどうかを試すべきである。  
 ○本文中に記述なし ×  
 g 電気器具は壊れたらすぐに捨てた方がいいということを、著者は悟るようになった。  
 ○第9段落の I realize now that I should have thrown it out the day it broke. に合致  
 h 現代の電気器具は非常に複雑な構造をしており、自分で修理するのが難しい。  
 ○第7段落で、修理するようには作られてないと書いてあるが、「複雑だから」とは書いてない ×  
 i これから100年後には、骨董電気器具の博物館が建てられるだろう。  
 ○本文に記述なし。最後の段落に書いてあるのは、museum value「博物館に展示されてもいいほどの価値」 ×

#### 全訳

①電気器具ほど古くなって役に立たなくなるものはない。古い家具は骨董品として価値が出るかもしれないし、古くなった服はいい雑巾になるかもしれない。しかし古い電気製品はがらくたである。アメリカではこの事実に向き合わなくてはならない。

②電気器具には限定された寿命があるという考えを受け入れるのは、たやすいことではない。③普通、電気器具を買う時は、それがとても新しくピカピカで魅力的な上に高価なので、

私達の寿命が問われないのと同様に電気器具の寿命も問われない。

今日我々の家では、何ダースもの壊れた電気器具が、台所の上の戸棚の奥に押しこまれたり、あるいは足元の戸棚の中の鍋類の後ろに隠されたり、屋根裏やガレージにしまいこまれている。私の家にも、再び使おうとは思わないコーヒーメーカーがいくつか、使えないラジオが2～3台、ヘアドライヤーが9つ、レコードプレーヤー、そして白黒テレビが1台ある。

おそらく我々に必要なのは、愛用した電気器具が壊れた時に私達を慰め、おごそかにそれらを葬る約束をしてくれる親身な葬儀屋のようなものであろう。フードミキサーをただごみ箱に投げ込むのは、とても野蛮なことのようと思われる。

④古い電気器具の最もひどい処理法は、あたかも恩恵をほどこすかのようにそれを友人や親戚にあげることだ。これによって、彼らはそれらを捨てるという重荷を背負わされるだけではなく、あなたがやってきて、あれはどこかと尋ねるのでは、という恐れもさらに背負わされてしまうのだ。

人々が以前に比べて長生きするようになったのに対し、電気器具はそれほど長持ちしない。だから今日さらに多くの人々が生きており、さらに多くの処分すべき電気器具が存在するのだ。

私の持っていたドリルが動かなくなった時、その問題の全体像が初めて分かってきた。そのドリルはまだ使えそうに見えたのだが、まったく動こうとしなかった。当然私はそれを修理してもらうことにした。しかしご存じのように電気器具を修理してもらおうと思うことと実際に修理してもらうことは、全く別物なのである。最新の電気器具のほとんどは修理できるようには作られていない。電気器具は壊れるまで使って捨てるように設計されているのである。

いずれにせよ、私はそのドリルを後で修理することにしてしまいこみ、新しいドリルを買いに行った。2つ使えばいいさ、と私は思った。

それから、明日で11年になるが、その動かないドリルは修理されるのを待ち続けて私が置いたところにそのままある。今では、壊れたその日に捨てるべきだったと思っている。まだ壊れていないところがたくさんあるように思えたのだが、もし、どこが壊れていてどこが壊れていないかがわからないならば、それは全く意味がない。

西暦3000年には、息子の最初のレコードプレーヤーには博物館的価値がつくかもしれない。しかし現状では、それは息子が以前使っていた部屋のスペースを占領しているがらくたの1つにすぎない。そして今度の土曜日の朝、私はそれを捨てることから始めようと思う。これでおさらばだ。

#### 注

ℓ.1 ◇ An old piece of furniture 「古い家具一点」

○ furniture は不可算名詞なので、このように a piece of ～ などとして数える。

ℓ.2 ◇ qualify as ～ 「～の資格を得る」

ℓ.7 ◇ pushed to the rear of upper shelves in the kitchen, hidden behind pots in the lower cabinets and stored away in the attic and garage are dozens of dead pieces of electric equipment.

○ 倒置形の文。本来の主語は下線部。

- cf. dozens of dead pieces of electric equipment are pushed …, hidden ~, and stored …
- rear「後部」 (= back)
  - store away ~ 「~をとっておく」
- ℓ. 12 ◇ what we need「我々が必要とするもの」
- ◇ would：仮定的な空想を表す。
  - ◇ console us on the loss of our electrical loved ones「愛用した電気器具を失ったことに関して我々を慰める」
  - console「~を慰める」
  - on：関連を表す「~について」
  - loss of ~ 「~を失うこと」《lose ~ の名詞表現》
  - ones = appliances
- ℓ. 13 ◇ dispose of them「それらを処分する」
- ℓ. 16 ◇ not only ~ but (also) … 「~だけでなく…も」
- ◇ puts the burden of throwing away on them「捨てることの重荷を彼らに負わせる」
  - put A on B 「BにAを負わせる」
- ℓ. 17 ◇ further「さらに」《far の比較級》
- ◇ the fear that you'll show up at the house and ask where it is「あなたが家に現れてそれ（譲った古い電気器具）はどこかと尋ねるという恐れ」
  - the fear と that 節は同格。「~という恐れ」
- ℓ. 19 ◇ While「~の一方で；~なのに」《ここでは対照を表す》
- ◇ appliances aren't lasting as long (as people) と補って考える。
- ℓ. 20 ◇ so there are more people alive today and more appliances that ought to be tossed out
- so「だから…；そういうわけで…」《結論を導く so》
  - there are more people alive → there is S 構文の後に形容詞などを伴って状態を表す用法。
  - and (there are) more appliances と補って考える。
  - toss out ~ 「~を投げ出す」
- ℓ. 22 ◇ a drill (that) I owned と関係代名詞を補って考える。「私の所有していたドリル」
- ℓ. 23 ◇ I decided to have it fixed「私はそれ〔ドリル〕を修理してもらうことに決めた」
- have O *done*「Oを…してもらう」
  - O と *done* の間には受動関係が成り立つ
  - cf. have O *do*「Oに…させる〔してもらう〕」
  - have him repair it「彼にそれを直させる」
- ℓ. 24 ◇ deciding to have an appliance fixed and actually getting it fixed are two different things「器具を修理してもらおうと決めることと、実際に修理してもらうことは別々のことである」
- deciding / getting：主語になる動名詞。「…すること」

○ get O *done* = have O *done*

cf. get O to *do* 「Oに…させる」《to 不定詞がくることに注意》

ℓ. 29 ◇ right 「ちょうど；まさしく」《意味を強める副詞》

ℓ. 30 ◇ waiting to be fixed 「修理されるのを待つて」《付帯状況を表す分詞構文》

◇ I should have thrown it out the day it broke 「それが壊れた日に捨ててしまうべきだった」

○ should have *done* 「…すべきだった」《実現しなかった過去の出来事》

ℓ. 32 ◇ do 人 no good 「人に益をもたらさない；人のためにならない」

ℓ. 34 ◇ take up ～ 「～を占める」

ℓ. 35 ◇ occupy 「～を専有する；～に住む」

## 【6】

### 解答

- (1) must have seen
- (2) cannot have been
- (3) have kept
- (4) should have

### 解説

- (1) (a) の文は「彼女自身がネッシーを見たのは確かだ。」の意。したがって、「…したに違いない」の意の *must have done* を用いる。
  - (2) (a) の文は「若い頃彼女は絶世の美女であったということはある得ない。」の意。したがって、「…したはずがない」の意の *cannot [could not] have done* を用いる。なお、*could* は仮定法で婉曲的な表現となる。
  - (3) (a) の文は「我々はそれを秘密にしたが、その必要はなかった。」の意。したがって、「…する必要はなかった (のにしてしまった)」の意の *need not have done* を用いる。
  - (4) (a) の文は「あなたが日本語を一生懸命に勉強しなかったのは残念だ。」の意。したがって、「…すべきだった (のにしなかった)」の意の *should have done* を用いる。
- なお、(1) ～ (4) とともに‘助動詞 + have *done*’の形であるが、この *have* は基本的に弱形 ([h]əv) で発音される点に注意。

## 【7】

### 解答・解説

- (1) As soon as the party was over, I came back home.
  - As soon as S V, 「SがVするやいなや」
- (2) I would as soon stay at home as go to the party.
  - would as soon A as B 「BするよりAした方がよい」
  - = would sooner A than B
  - = would rather A than B
  - = might [may] as well A as B

- (3) I would sooner lie to myself than speak truly.
- (4) No sooner had I told her the truth than I realized I shouldn't have said it.  
 (= I had no sooner told her the truth than I realized I shouldn't have said it.)  
 (= As soon as I told her the truth, I realized I shouldn't have said it.)  
 (= I had hardly [scarcely] told her the truth when [before] I found I shouldn't have said it.)  
 (= Hardly [Scarcely] had I told her the truth when [before] I found I shouldn't have said it.)
- (5) I may as well walk as wait for the next bus.  
 ○ may as well A (as B) 「(Bするなら) Aするのも同じだ; (Bするより) Aした方がよい」
- (6) You may well get scolded for doing such a mean thing.  
 ○ may well … と may as well …との区別に注意。

## 【8】

### 解答

- (1) This is the second time tonight that the gas has gone out.
- (2) I crossed out my old address and wrote the new one in its place.
- (3) It should be ideal for fishing today.
- (4) He is just the right person for the job.
- (5) It takes time.
- (6) It's written all over your face.

### 解説

- (1)  
 ○ガスや水道などが「止まる」は火・灯かり・ろうそくなどが「消える」のと同様なものと英語では考え、go out を用いるのが普通。
- 「～は今夜これで2度目です」は This is the second time tonight that ～で書き出す。that は関係副詞で the second time を修飾する形容詞節を導く。なおこの that は省略可能である。この形は「富山に来たのはこれが初めてです」が英語では This is the first time (that) I have come to Toyama. となることを知っていれば応用できるだろう。
- (2)  
 ○書いたものを「消す」は、cancel, erase, remove, eliminate, delete といった難しい単語を用いても表現できるが、out を含む基本表現を覚えていた方が応用が利く。
- cross ～ out [off] / cross out [off] ～「ペンなどで線をひいて消す→削除する」
- rub ～ out / rub out ～「消しゴムなどで、こすって消す」
- wipe ～ out [off] / wipe out [off] ～「～をぬぐって消す」
- rub out や wipe out は、人以外に、消されるものを主語にして用いられることもある。  
 cf. "Didn't I tell you to rub out that \*graffiti?"  
 "I tried, but it won't rub out."

(あの落書き, 消しなさいと言ったでしょ。)

(消そうとしたよ, でも, どうしても消えないんだ。)

\*graffiti [græfɪti] 「落書き」

(3)

「今日は…するのにもってこいだ」に対応する, 決まった言い方は,

It	should be	ideal	for — today.
		perfect	
	is	an ideal	day for —.
		a perfect	
Today	should be	ideal	for —.
Today's weather		perfect	

などがある。

本問は「今日は釣りをするのにもってこいだ」なので, — の部分に fishing または angling を入れればよい。なお, 文中の should は expectation (見込み, 推定, 予期) を表す should と言われるもので, 強形で [ʃód] と発音される。

まだ釣りをしていない状況で天気を見て「今日は釣りをするのにもってこいだ」と言いたいのなら, should を入れるとピッタリするというのが米国人インフォーマントのコメント。この should は重要なので例文をあげておく。

Ex. The bus should be coming soon. (バスはすぐ来るだろう。)

It should stop raining before noon, according to the weather forecast.

(天気予報によれば, お昼までには雨はあがるはずだ。)

(4)

「～にうってつけの人だ」は

be just	the right person	for ~
	right	

be perfectly suited to ~

となるが, for を用いるのが条件なので, 正解は He is just the right person for the job. となる。この right は most appropriate と同義で最上級の意味合いがあるので, 後ろに名詞が続く時には, the を付ける。

e.g. the right person in the right place (適材適所)

Ex. We weren't right for each other. (私たちはお互いに合わなかったのね。)

This coat is just right for you. (このコートは君にぴったりだ。)

He took the right road. (彼は道を間違えなかった。)

(5)

「～は時間〔空間, 労力, 材料〕がかかる〔を必要とする〕」には ~ take ..., 「～は費用がかかる」は ~ cost (money) を用いるのが基本。本問は「それには時間がかかります」とあるので, 主語を It または that にして

It		takes time.
That		

とすればよい。

主語に形式主語がくる用法は知っていても、より頻度が高いこの形式を知らない者が多いので要注意。

cf. The job takes time. (その仕事は時間がかかる。)

My job takes a lot of doing. (私の仕事は骨が折れる。)

It takes two to make a quarrel. (けんか両成敗。)

All it takes is a little kindness to others.

(必要なのは、他人へのちょっとしたいたわりだ。)

(6)

「あなたの顔にみんな書いてありますよ」という日本語とほぼ同じ表現が英語にも存在する。

It's で始めるよう指示があるので It's written ～ で書き出すのは容易であるが、その後をどう続けるかは決まり文句として覚えていないと無理である。結論を言えば、本問は It's written all over your face. である。次のダイアログで確認しておこう。

Eliza : How do you know I have a new boyfriend?

Nashimoto : It's written all over your face.

イライザ : 「私に新しい恋人がいるって、どうしてわかるの?」

梨本 : 「君の顔にみんな書いてあるよ。」

#### 今日の一言

Talk of the devil, and he will appear. 「うわさをすれば影が差す。」

‘命令文, and S V.’ (～しなさい。そうすれば, S V。) の形式になっている。接続詞を or に変えると, ‘命令文, or S V.’ (～しなさい。さもないと S V。) となる。直訳は「悪魔について話をすれば, 悪魔が現れる。」となる。人のうわさをするのは楽しいでしょうけれども, 「最近アイツ出来るようになったよね」といううわさを立てられるぐらいになれるとよいですね。



【1】

解答

- (1) In addition
- (2) through the park to show off her new dress

【2】

解答例

- (1) I don't like to speak ill of others, nor do I want to read slanderous messages, especially on the Internet.
- (2) The white-haired man that [who] talked to me on campus yesterday may have been that biologist who received the Nobel Prize three years ago.

【3】

解答例

A. 「お花見」

“O-Hanami” means cherry blossom viewing. The cherry [Cherry blossom] is the national flower of Japan and comes into full bloom in early spring. A lot of people go out to parks or gardens that command a fine view of cherry blossoms, and enjoy getting together with their co-workers, family members, and friends. [50 words]

B. 「お盆」

“O-Bon,” also known as the “Bon Festival” is a Buddhist summer festival at which the souls of departed ancestors are welcomed home. These spirits are believed to return to their families during this period. People visit their ancestral graves and make offerings of flowers and incense. [46 words]

C. 「お正月」

“O-Shogatsu” means the New Year holidays, and is considered to be the most important annual event in Japan. Family members living far apart [who normally live far away] return to their homes, where a traditional meal called “Osechi” is served. Many people go to Shinto Shrines to pray for good luck and happiness for the year. [51 words]

## 12章 否定1

### 問題

#### 【1】

##### ポイント

よく部分否定だとか全部否定だとか、紋切り型の説明がなされたりするが、要は「否定詞が何を打ち消しているのか」に尽きる。ここではそれぞれの否定詞が何を否定しているのかをしっかりと考えよう。また、否定詞を用いずに否定の意味を表す表現（含意否定）にも注意しよう。

A.

##### 解答・解説

「これは古いからよくない。」／「これは古いからよいというわけではない。」

○ not が good のみを打ち消すと考えると前者の訳になるが、not が good because it's old までを打ち消すと考えると後者になる。

B.

##### 解答・解説

(1) (i) 「彼女は私を全く理解してくれなかった。」

○ simply は否定語の前では「全く、完全に」となり否定を強調する。

(ii) 「彼女は私を理解してくれただけではなかった。」

○ simply が否定語の後に置かれると「単に」という意味になる。

○ not simply ~ = not only ~ 「単に~だけでなく」

(2) (i) 「光るもの全てが金とは限らない。」

(ii) 「日本中のお金でもあなたに幸せを買うことは出来ない。」

○ all ~ not ~ は not all ~ と同じく「全てが~と限らない」という部分否定の意味になるが ((i)), 状況によっては「全てが~ない」という全部否定にもなる ((ii))。

(3) (i) 「私はかなり疲れました。」

○ not a little = quite a little (少なからぬ, かなり) となり, not は a little を打ち消す。

(ii) 「私はちっとも疲れませんでした。」

○ not a bit (少しも~でない) となり, not は文全体を打ち消す。

(4) (i) 「彼は私の友人ではない。」 not は普通の打ち消し。

(ii) 「彼が友人だなんてとんでもない。」

○ no は「決して~などではない」という強い打ち消し。

(5) (i) 「私はどちらも買わなかった。」 (= I bought neither.)

○ not ~ either は「(2つのうち) どちらも~ない」(全部否定)

(ii) 「私は両方とも買ったわけではない。」

○ not ~ both は部分否定となり「両方とも~というわけではない。」という意味になる。

(6) (i) 「私は全くわかりません。」

○ not ~ at all = never 「ちっとも～でない」(全部否定)

(ii) 「私は完全に確信しているわけではない。」

○ not ~ quite 「完全に～というわけではない」(部分否定)

C.

**解答・解説**

(1) Every 「例外のない規則はない。」

(2) uncommon 「この種の間違ひは極めてよくある。」

(3) no means 「彼の説明は全く明確ではない。」

○ far from = by no means (= not at all = anything but など) 「決して～でない」

(4) beyond 「私はその問題を解決できない」

○ beyond ~ 「～の範囲を超えた → ~できない」

e.g. beyond description (言葉で説明できない), beyond doubt (疑いの余地がない),

beyond control (制御できない), beyond remedy (矯正できない) など

(5) fails 「彼女は必ず時間通りに来る。」

○ fail to do は「…できない; …しない」という意味であるが、その否定形の never fail to do は「…しないことは決してない → 必ず…する」という意味になる。

**【2】**

**ポイント**

否定表現の中でも特に頻出される表現を学習する。

**解答・解説**

(1) a 「欠点を持たない者はいない。」

○ be far from ~ (決して～でない) と be free from ~ (～を持たない) の区別はしっかりとつけておくこと。

(2) c 「警報機が作動したとき、どうすべきか知っていた人は、その建物内にはほとんどいなかった。」

○ scarcely any = hardly any = almost no であり、数量が「ほとんどない」ことを示す。時間的に「ほとんど～しない」という意味は hardly ever = scarcely ever = almost never となることに注意。

Ex. I'm hardly ever home. (私はほとんど家にいない。)

(3) b 「携帯電話の大衆化のせいで、今日手紙を書く人が少なくなった。」

○ hardly や almost は副詞のため people を直接修飾できない。(2)にあるように hardly any people ならよい。least の原級は little であり不可算名詞を修飾する。なお、writing は動名詞であり fewer people が意味上の主語となっている(詳しくは動名詞の回で扱う)。

○ lead to ~ 「～につながる」

(4) c 「彼女のコメントはこれまで聞いたことのないくらい最もバカげたものの1つです。」 (= I have never heard more ridiculous things than her comment.)

- 日本語では「聞いたことのないくらい」とすることができるため **d** を選んでしまう可能性があるが、あくまでも「これまで私が聞いたことのあるものの中でも最もバカげた」という意味であることに注意する。
- (5) **a** 「あなたの論文は、考えを裏付ける具体例がほとんどないためよい評価が与えられないでしょう。」
- very few は「ほとんどない」という準否定表現であるが、他は肯定的。  
 ○ quite a few = not a few 「かなり多くの」  
 ○ just a few 「わずか2, 3ある」
- (6) **d** 「彼女が家を出るか出ないかのうちに雨が降り始めた。」
- = No sooner had she left the house than it started to rain. = As soon as she left the house, it started to rain. = The moment she left the house, it started to rain.  
 ○ 否定の副詞が文頭に置かれたためその後が倒置されている。
- (7) **b** 「デイビッドはいつもスピードを出している。いつか重大事故を起こすだろう。」「そうならないとよいのだが。」
- hope, think, believe, suppose, be afraid などの後に肯定の that 節が来る場合は so で代用され、否定の that 節が来る場合には not で代用される。  
 Ex. “Will he come?” “I think so. (= I think that he will come.) ”  
 (彼は来るかな?) “I’m afraid not. (= I’m afraid that he will not come.) ”  
 (来ると思う。) / (残念だが来ないと思う。)
- (8) **c** 「私があなたくらいの若さの時、将来についてあまり考えませんでした。」
- not ~ much は部分否定で「あまり～ない」という意味になる。他に部分否定になるのは、not ~ all, not ~ always, not ~ quite, not ~ absolutely, not ~ entirely, not ~ completely などがある。
- (9) **d** 「すみません、予定があるんです。土曜日ではなく日曜日ではどうですか。」
- instead of ~ 「～の代わりに、～ではなくて」  
 ○ let alone ~ 「～は言うまでもなく」  
 ○ no farther than ~ 「～くらいまでしか」  
 Ex. He went no farther than the door. (彼は戸口までしか行かなかった。)
- (10) **c** 「ジャックとケヴィンはどちらもオリンピックの金メダルを目指していたが、どちらも代表チームに選ばれなかった。」
- 2人しかいないので、none ではなく neither を選ぶ。both ならば was ではなく were になるはずである。
- (11) **c** 「ツイッターにメッセージを送信して初めて、そのメッセージが本当は不適切であることが分かるのでしょ
- う。」
- may you find と倒置になっていることから否定の副詞(節)が前置されていると考える。  
 また、Only as = Not until であるから、答えは **c** となる。  
 Ex. Not until I finished it did I realize my mistake.  
 = Only as I finished it did I realize my mistake.  
 = It was not until I finished it that I realized my mistake.

(終わらせて初めて間違いに気がついた。)

### 【3】

#### ポイント

日本語と英語では否定の仕方が異なる。ここでは日英の表現の違いを整序英作文の問題を通して学習していく。

#### 解答・解説

(1) Medical technology is too advanced for physicians not to have answers for patients.

- too ~ to do は「～過ぎて…できない」となって既に否定表現になっているが、notが入ると to do の部分がさらに否定されて、「とても～なので…しないはずがない」というような意味になる。

Ex. She is too smart not to see the point.

(彼女は非常に賢いからその点がわからないはずはない。)

(2) Very few words that the scholar said made a deep impression on me.

- 主語が no とか few などの場合は訳し方に工夫が必要とされる。例えば、Nobody said so. は「そう言った者は誰もいなかった。」と訳し上げていかなければならない。この問題文も、「学者が言った言葉は～ほとんどなかった。」という訳になっていく。

(3) Here not all the staff speak English well enough to do their job without an interpreter.

- not all ~ 「全てが～というわけではない」
- well enough to do はいわゆる enough to do 構文であり、形容詞や副詞の後に enough を置く。

### 【4】

A.

#### 全訳

『ロビンソン・クルーソー』を今日とても人気のある旅行の本と読み比べてみよう。そうすれば、興奮、観察、興味という様々な点において、それに匹敵するような旅行記がいかに皆無に近いかということに気づくだろう。

B.

#### 全訳

実際、我々2人の間には次のような違い、つまり、彼が立派な衣服を着ているのに、私は古着をまとっているし、私が飢えることがよくあるのに彼は食べ過ぎからかなり苦しんでいるという違いがあるのです。

C.

#### 全訳

ここ日本ほど、人々が他の人の意見を気にするところは地球上にどこにもないと、私は確信している。日本人は、他の人が自分についてどう思うだろうかと考えずに言葉を言うことはほとんどできない〔日本人が言葉を発する時にはたいがい他の人が自分についてどう思う

だろうかと考えてしまう]。そうすると、このように考えるために、彼らは結局何も言わないということになってしまうことがよくあるのだ。

D.

**全訳**

「重要なのは何を知っているかではなく、誰を知っているかである。」出世する人々は、本人が成功に値するから成功するのではなく、有力な友人がいるとか最も適当な背景があるから成功するのかもしれない。

**【5】**

**解答**

(1) 「全訳」の下線部①～③参照。

(2) call

(3) As soon as they

(4) a

(5) a ○                      b ×                      c ○                      d ×  
e ×                      f ○                      g ○                      h ×

**解説**

(1)

①◇ be based on ～「～に基づいている」

◇ the fact that ～「～という事実」

○ that : fact の同格節を導く接続詞

◇ sound : ここでは動詞用法「(警報など) を発する」

◇ distinctive 「明確に区別のできる；独特の」

◇ major 「主要な」

②◇ hearing は monkeys を修飾する現在分詞

= the monkeys that are hearing the calls

◇ would : 仮定的な空想を表す用法。

◇ この文における not は because 以下も含めて否定していることに注意する。(…だからといって～でない)

cf. I didn't marry him because he was a foreigner.

① marry を否定していると考える場合

「外国人だったので、彼とは結婚しなかった。」

② because 以下も含めて否定していると考える場合

「彼が外国人だったから彼と結婚したわけではない。」

③◇ What drove them up the trees, into the bushes or up onto their hind legs ( S ) was ( V ) …… 文末 ( C ) の第2文型。

○ 主語の部分の構造に注意。

What (S') drove (V') them (O')  $\left\{ \begin{array}{l} \text{up the trees} \\ \text{into the bushes} \\ \text{or up onto their hind legs} \end{array} \right\}$  (C')

- up the trees, into the bushes or up onto their hind legs は前述（第1段落後半）を指していることに気づくとよい。
  - drive O C 「OをCの状態にする」
  - onto ～ 「～の上へ」
  - hind legs 「後ろ足」
  - not A but B 「AではなくB」  
A = the sight of the enemy or the seeming urgency of the call  
B = the information it carried
  - evidently 「明らかに」
  - sight of ～ : see ～ の名詞表現《目的格関係を表す of》
  - seeming 「うわべの；見かけの」
  - the information (which) it carried と関係代名詞を補って考える。
  - it = the call
- (2) 前出の語の繰り返しを避ける one の用法。
- (3) on …ing 「…すると同時に；…するとすぐに（= as soon as ～）；…すると（= when）」
- (4) 文脈から、譲歩を表す even though 「たとえ…でも」を選ぶ。
- (5)
- a 本文は猿の警告を伝達する能力についての研究報告である。 ○
  - b 猿の警告音は非常に大きいので、その主要な天敵は簡単にその音に気がつく。 ×
  - c 猿は異なった敵に対しては異なった警告音を発する。 ○
  - d それぞれの猿は警告音に対して異なった反応をする。 ×  
○ 実験結果により、一種類の鳴き声に対する反応は変わらなかった、と述べられている。
  - e 警告音を発する猿の興奮の度合いが、それを聞く猿の反応に与える影響の不可欠な要素であるということがわかった。 ×  
○ 第3段落で、興奮の度合と他の猿の反応には関係が無いという実験結果が得られた、と述べられている。
  - f 録音された鳴き声の大きさと長さに再生実験の際変化がつけられた。 ○  
○ l. 17～18 に一致。
  - g この実験により、鳴き声に含まれている情報に従って、猿は異なった行動をするということがわかった。 ○
  - h この実験により、鳴き声によって伝達される情報には、敵の位置も含まれているということがわかった。 ×

**全訳**

1970年代末に、動物学者のグループが、ある種の猿の警告の鳴き声について研究した。

①その実験は、猿は主要な天敵に対し、それぞれ他の天敵に対するのとはっきり区別のでき

る警告音を発するという事実に基づいたものであった。虎を見た時には吠えるように鳴き、鷺に対しては咳払いをし、毒蛇に対してはキャッキャツという鳴き声をたてる。鳴き声を聞いた猿は、それぞれの声に対して異なった反応をする。虎に対する警告に対しては最寄りの木に上り、鷺に対する警告を聞けばすぐに藪に逃げ込む。そして蛇に対する警告の時には後ろ足で立ち上がり辺りを見回す。

それぞれ異なる反応をするということから、言葉と同じように、それぞれの鳴き声は天敵の正体に関する情報を伝達するのかもしれないということが考えられた。また一方で、様々な鳴き声は人間の喘ぐ音や叫びに近いもので、単に恐れや興奮の度合いを反映しているだけなのかもしれないとも考えられた。その場合、②鳴き声を聞いている猿は、何らかの情報を受け取ったから異なった行動をしているわけではないだろう。そうではなくて、ある鳴き声は単に敵を探すよう他の猿に警告を与えるだけであるか、あるいは鳴き声をあげる猿の興奮の度合いだけで他の猿の反応を導くのに十分なかもしれない。

猿が実際には何に反応しているのかを調べるために、その動物学者のグループは猿の警告音を録音し、猿の群れのそばに隠したスピーカーからその音を再生した。再生の間、鳴き声の大きさや長さ — つまり、鳴き声をあげる猿の興奮の度合いを反映する要因 — をいろいろと変えた。目に見える所に天敵がいなくても、猿は反応し、録音された鳴き声を多少切迫したものにしても、猿の特定の反応は変わらなかった。③猿が木に登ったり、藪に入ったり、後ろ足で立ち上がったたりするのは、明らかに、敵を見たり、鳴き声がどれくらい差し迫ったものに聞こえるかによってではなく、鳴き声が伝達する情報によってなのであった。

#### 注

- ℓ. 4 ◇ chatter 「①トリがピーチクパーチク鳴く；猿がキャッキャツと鳴く；木の葉などがサラサラと音をたてる ②人がぺちゃくちゃしゃべる」
- ◇ Monkeys hearing the calls 「鳴き声を聞く猿」
- hearing は Monkeys を修飾する現在分詞
- ◇ react to ～ 「～に反応する」
- ℓ. 8 ◇ the distinct responses 「明確に区別のできる反応」
- ◇ hint：ここでは動詞用法「～ということを暗示する；ほのめかす」
- that 節を目的語としている
- ◇ like words 「言葉のように」
- ◇ might：現在の弱い推量を表す。
- ℓ. 9 ◇ identity 「①本人であること；正体 ②同一であること ③個性；独自性」
- ℓ. 10 ◇ similar to ～ 「～に似て」
- ℓ. 12 ◇ instead 「そうではなくて」
- ◇ warn O to do 「Oに…するよう警告する」
- ◇ look for the enemy *themselves* 「自分で敵を探す」《再帰代名詞の強調用法》
- ℓ. 15 ◇ To find out what the monkeys were really reacting to 「猿が実際には何に反応していたのかということを見発するために」
- 目的を表す副詞用法の不定詞句。
- what …：find out の目的語になる名詞節。



ℓ. 16 ◇ hidden → loudspeaker を修飾する過去分詞。

= loudspeaker that was hidden

◇ a band of ～ 「～の一団 [一群]」

ℓ. 17 ◇ vary 「～を変える [変更する]」

◇ duration 「継続；持続時間」

ℓ. 18 ◇ factors that reflect the caller's level of agitation : the loudness and duration of the calls を同格的に言い換えた部分。

○ that は factors を先行詞とする関係代名詞。

○ agitation 「不安；動揺；興奮」

cf. agitate v. 「～をかきまわす；～を扇動する；～を論ずる」

ℓ. 19 ◇ specific 「特定の」

◇ when the recorded calls were made to sound more or less urgent 「録音された鳴き声が多かれ少なかれ切迫した音に聞こえるようにされた時」

○ when they made the recorded calls sound more or less urgent の受動態。

○ make O do を受動態にすると原形不定詞が to 不定詞になる。

○ urgent 「急を要する；切迫した」

## 【6】

### ポイント

否定表現が使われた場合の「真意」をとらえる演習をしてみよう。いずれも重要表現なので、しっかりと理解しておくこと。

### 解答・解説

(1) a

グレース：コーヒーはいかが？

ディラン：既に淹れて頂いているなら頂きますが。

a ディランは彼女（グレース）にコーヒーを淹れる手間を掛けさせたくない。

b ディランは、本当はコーヒーを飲みたくない。

c ディランは、本当はコーヒーを飲みたい。

d ディランはカフェオレを飲みたい。

unless S V (SがVしない限り) であるから、「既にコーヒーを淹れていない限り、いりません。」となる。「淹れてあるなら飲むが、そうでなければ敢えて望まない」と考える。

(2) c

ジョン：ステファンの昨日のスピーチはどうだった？

サラ：最高だったよ。

a 昨日は他の誰かがステファンよりよいスピーチをした。

b 昨日のステファンのスピーチはサラが予想したほどよくはなかった。

c 昨日、ステファンのスピーチに関しては万事うまくいった。

d 昨日、ステファン以上に上手いスピーチをした者は他に誰もいなかった。

It couldn't have been better. は「これ以上うまくいくことはなかったであろう。」とい

う意味。つまり、「これ以上ないほど最高だった。」ということになる。けれどもこれは、他の者と比べてステファンが1番だったということではなく、ステファンのスピーチ自体が完璧だったということにすぎない。したがって **d** ではなく **c** を選ぶ。

(3) **b**

クリス：あそこのレストランに行ったことがある？

アンナ：いいえ一度も。最も行きたいと思わない場所だもの。

- a アンナはそのレストランに大変行きたがっている。
- b アンナはそのレストランに行く気持ちが全くない。
- c アンナはむしろそのレストランに行けたらと思っている。
- d 最終的にアンナはそのレストランに行った。

the last place は文字通り「最後の場所」ではなく比喩的に「最も行かなそうな場所」という意味である (last = least likely)。なお, no ~ whatever = no ~ whatsoever = no ~ at all である。

【7】

解答

- (1) **c**      (2) **d**      (3) **c**      (4) **c**  
(5) **a**      (6) **b**      (7) **c**      (8) **d**

解説

(1) **c**

「よい話というものは、2度聞いたからといってそれだけ悪くなるものではない。」

- 'none the 比較級 for ~' 「～にもかかわらず、少しも…にならない」
- none は否定の副詞。

Ex. I'm none the wiser for his explanation.

(彼の説明にもかかわらず、私は少しも理解が進まない。)

- 他の選択肢はすべて肯定。

(2) **d**

「被災地からはまだほとんど情報が届いていない。」

- 否定の文脈の yet に合うのは, Hardly any だけ。他は肯定。
- cf. not [quite] a little 「かなりの；相当な」

(3) **c**

「彼は1980年代の後半に、金融コンサルタントとして地位を確立することに成功した。」

- 「後半」は the latter half と表す。「前半」は the first half という。
- late の比較変化は, later-latest だが、「順序」の場合だけ latter, last を用いる。

(4) **c**

「人から孤立するのは日常的な姿ではないし、また孤立を永遠に続けることもできないと覚えておかねばならない。」

- nor を含む **b** と **c** が、否定。
- ‘否定文, nor V + S’ は「…しないし、またS Vもしない」という意味を表す。

Ex. I'm not going, nor is John. (私は行かないし, ジョンも行かない。)

(5) a

「数字にゼロをたくさんつけるほど, ますます現実味が薄れるように思えるのは, 不思議な心理的事実である。」

○ 'the 比較級..., the 比較級~.' 「...すればするほど, ますます~する」

○ c, d は肯定の文脈。b は less と real が離れているので不可。

(6) b

「象に乗ったことがありますか。」「いいえ, 1 度もありません。」

○ 相手の問いに短縮形で答える場合, I have never. ではなく, I never have. と言う。

(7) c

「彼が初めて探偵小説作家として名声を勝ち取ったのは, 1985 年のことであった。」

○ 強調構文のポイントは, It, is, that を取り除いても文が成り立つことだが, He first achieved fame as a mystery writer in 1985. で, 文の形になる。

○ このような歴年の前置詞は in。

(8) d

「歴史が始まって以来, 多感な人を嘆かせるほどの抑圧がなかった時代は 1 度もない。」

○ Never という副詞を文頭に出して強調したため主語と動詞の倒置が起こり, there has been a period が has there been a period となる。

○ oppression 「抑圧; 圧迫」

## 【8】

### 解答

(1) It is easy to make a plan, but difficult to carry it out.

(2) Would you help me figure out my income tax?

(3) Can I get back to you this afternoon?

(4) I'll come back to that question later.

(5) What have you done with my glasses?

(6) They're right before your eyes.

### 解説

(1)

○ 「計画をたてる」は make a plan

○ 「計画を実行する」は carry out a plan [carry a plan out] または put a plan into practice [operation] を用いる。

○ carry out の out は副詞なので, 目的語が代名詞の時は carry it out の形のみ可。

(2)

○ 「…して下さいませんか。」は Would you ~? で書き出す。

○ 「A が…するのを手伝う」は help A (to) do を用いる。

○ 「所得税」は income tax (この文脈では income として用いる)

○ 「計算する」は calculate, reckon を用いても表せるが, figure ~ out [figure out ~]

を用いる方が口語的な表現となる。またこの out は「骨を折って仕舞までやりとげる」という意味合いを持っている。なお「計算する」に対応する英語 count (up) と考えた人もいたと思うが、これは「(1つずつ数えて) 計算する」の意味なので、ここでは用いることはできない。

cf. I've got to count (up) the number of the pages.

(ページ数を計算しなければならない。)

(3)

「…してもよいですか。」の様に許可を表す表現形式には

- |       |  |                 |
|-------|--|-----------------|
| ○ Can |  | I + <i>do</i> ? |
| May   |  |                 |
- Do you mind + if 節 (直説法)?
  - Would you mind + if 節 (仮定法・直説法)?
  - Is it all right + if 節 (直説法)?
  - Would it be all right + if 節 (仮定法)?

がある。

「もう1度～に連絡する」を back を用いて表せば, get back to ～となる。これは「～に連絡する」の意味の get to に「元の所へ」の意味の副詞の back を加えたものである。

以上より本問は

Can		I get back to you this afternoon?
May		

Do you mind if I get back to you this afternoon?

Would you mind if I		got get		back to you this afternoon?
---------------------	--	------------	--	-----------------------------

Is it all right if I get back to you this afternoon?

Would it be all right if I got back to you this afternoon?

と表現できる。

(4)

「その質問には後ほど触れます。」は「後でその質問に戻ります。」という発想で

		later.
I'll come back to that question		later on.
		afterward.

となる。この come back to は「(元の話題)に戻る」の意味。

なお「その質問には後ほど触れます。」は質問を受けたその時の決断なので‘あらかじめ考えておいた意図’を表す be going to ではなく will を用いなくてはならない点にも注意しておこう。

Ex. A : There's no butter left in the refrigerator. (冷蔵庫にバターが残っていないよ。)

B : ① I'm going to get some today. (今日買ってくるつもりなのよ。)

② I'll get some today. (じゃあ今日買ってきましょう。)

(5)

「僕のメガネをどこに置いたのですか。」は、with を用いなければ Where have you put my glasses [Where did you put my glasses]? となるが、「with を用いて」という条件があるので一工夫が必要となる。

実は、do with という句動詞は、do を他動詞として扱い、疑問詞 what とともに用いて、What have you done with ～? の形になると、「～はどうした」という意味から、「～をどこに置いてきたのか?」→「～はどこにあるのか?」という具体的な意味を持つようになるのである。したがって本問は、What have you done with my glasses? となる。

なお、with ではなく to を用いて、What have you done to my glasses? とすると、「メガネに何をしたのか (壊したのでは)」という意味になる。以下の対話で確認しておこう。

Ex. Takeuchi : What have you done to your face?

Nakamura : I cut myself while shaving.

竹内:「あなたのそのお顔どうしたの。」

中村:「ひげをそっている時切ってしまったんだ。」

(6)

「君の目の前にある」は、

～ be 動詞 +		right in front of you.		eyes.	
		right before your eyes.			
		right under your (very)			nose.
		right in front of your nose.			

と表せるが、本問での問題は主語である。(5) の返答ということであるから、目の前にあるのは、「あなたのメガネ」、つまり your glasses であるから、主語は It ではなく They としなくてはならない。したがって、本問は

They are right		in front of you.		eyes.	
		before your eyes.			
		under your (very)			nose.
		in front of your nose.			

となる。It で書き始めた人は、単数・複数形の用法が身についていないので、次のダイアログで確認しておこう。

Ex. Shinobu : Get me my glasses.

Toru : Here they are.

シノブ:「ぼくのメガネとって。」

トオル:「ほら、どうぞ。」

## 今日の一言

You can never be too cautious. 「石橋を叩いて渡る。」

cannot ～ too …構文として知られている表現で、「どんなに～しても…しすぎることはない」という意味になる。他にも Look before you leap. (飛ぶ前によく見ろ。) や Think well before you decide. (決める前によく考えろ。) といった表現や, Better safe than sorry. (後悔するより安全を。) などという表現がある。何事においても安全, 無難なのが言うまでもないが, 時にはリスクを冒すことも必要だし, そもそもリスクがない人生が面白いものだろうか。受験も同様で, 常にワンランク上の大学を目指してみよう。